

2017年度環境経営活動レポート

対象期間：2017年7月～2018年6月



マトヤ技研工業株式会社

2018年7月12日発行

目 次

1. 経営理念	．．．． 3
2. 環境経営方針	．．．． 4
3. 組織の概要	．．．． 5
4. 認証・登録の対象組織・活動	．．．． 7
5. 2017年環境目標とその実績・評価	．．．． 8
6. 2017年環境目標の取り組み計画と評価	．．．． 9
7. 2018年度の取り組み	．．．． 10
8. 環境関連法規等の順守状況	．．．． 11
9. 代表者による全体の見直しと評価	．．．． 12
10. 環境活動の紹介	．．．． 13

1. 経営理念

- 社会的信頼と責任

会社を取り巻く人々と誠意を持って協調し、お客様の視点で考え、お客様に安心して安全な機械装置を提案し、社会的信頼と責任を果たします。

- 会社の発展

永続的発展を第一とする健全経営を推進し、業界の先頭に立ち、絶えず新技術を創造し、社会から支持され、信用される企業経営に努めます。

- 社員の幸福

社員の幸福の達成に努め、社員は産業人として絶えず研鑽に努め、創意工夫と進取挑戦の精神で仕事に取り組みます。

2. 環境経営方針

マトヤ技研工業株式会社 環境経営方針

人類の利便性を求める経済活動が一方では地球環境の破壊に繋がり、人類の存在を脅かしています。マトヤ技研工業は、「社会的信頼と責任・会社の発展・社員の幸福」という経営方針を達成する為に「低炭素・循環型・自然共生社会」を考慮し、省力化・環境配慮機器の開発、製作、販売事業、並びに有益な社内環境活動を通じ、持続可能な社会環境を追及してまいります。

1. 事業活動全般における電力・燃料等のエネルギーの効率利用や水資源の有効利用による環境負荷及びコスト削減を追及し、最適な企業活動を目指します。
2. 省力化機器メーカーとして、お客様に省力化や環境配慮商品を供給し、労働負荷や環境負荷並びにコスト軽減に貢献する企業を目指します。
3. 業務及び製作工程における一般・産業廃棄物の発生を抑制し、発生物は資源への還元を目指します。
4. 当社周辺の緑豊かな地域に鑑み、化学物質の適正保管と使用、排出抑制を行なうと共に生態系への影響の少ない物質への切替えに取り組みます。
5. 地域に育まれる企業として、地域周辺の環境保全に全社員で取り組みます。
6. 環境保全活動をシステムの的に運営し、定期見直しを行い、継続的改善・汚染の予防を積極的に実施します。
7. 環境関連法規及び同意したその他の要求事項を順守する等コンプライアンスの向上を目指します。
8. この環境方針は、当社の環境活動の指針として全従業員に周知し、一般の方に公開します。

制定日：2008 年6 月1 日

改定日：2018 年7 月1 日

代表取締役 益留 福一

3. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マトヤ技研工業株式会社
代表取締役 益留 福一

(2) 所在地

本 社 〒899-8608
鹿児島県曾於市末吉町南之郷3050-6
宮崎工場 〒885-0063
宮崎県都城市梅北町11267
大阪営業所 〒561-0853
大阪府豊中市服部南町1-4-10
東京営業所 〒121-0011
東京都足立区中央本町4-15-13

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 豊増 敏夫（取締役専務）
環境事務局 益留 房代（取締役総務部長）
連絡先 TEL 0986-76-0018
FAX 0986-76-2729
E-mail info@matoya.com

(4) 創 業 1985年6月

益留、豊増、山内 の三名で創業。
それぞれの頭文字からマトヤと名付ける

(5) 事業内容 自動省力機器設計・製作および販売



地域未来牽引企業

地域未来牽引企業に
経済産業省から選定
されました。



2018年6月 東京ビッグサイトのFOOMA展に出展いたしました。新製品トリドリミドリに多くのお客様が来られました。



第11回かごしま産業技術賞
特別賞を受賞しました。



九州ニュービジネス大賞
優秀賞を受賞しました。



毎年、各高校や各団体の
の方々が、工場見学に
来られます。

(6) 事業の規模 (2017年度：2017年7月～2018年6月)

売上高 718百万円

従業員	本社	大阪営業所	東京営業所
	43名	2名	3名

(7) 当社のプロセス

新製品開発



営業



設計



加工



組立



据付工事

食肉・食品関連機械と電子部品生産システム自動車部品・クーラント関連機械の3部門 工業所有権 は 25 件

<主な製品>



新製品
←トリ・ドリ・ミドリ
腹脂剥ぎ機 →



4. 認証・登録の対象組織・活動

適用範囲：マトヤ技研工業株式会社 本社・宮崎工場
大阪営業所・東京営業所

事業範囲：自動省力機器設計・製作及び販売



2018年4月1日入社式



東京営業所と大阪営業所は、電力は非管理の為、自動車燃料等の削減のみ適用する

5. 2017年度 環境目標及びその実績・評価

1. 二酸化炭素排出量の削減	目標	実績
① 電力の削減：基準年比 本 社	△1% →	11.0%
宮崎工場	△1% →	26.8%
② 燃料の削減：基準年比 本 社	△1% →	7.3%
東 京	△1% →	15.6%
大 阪	△1% →	△6.1%
2. 産業廃棄物の削減：リサイクル率	85% →	75 %
3. 水使用量の削減：基準年比 本 社	△1% →	△20.8%
宮崎工場	△1% →	6.4%
5. 化学物質の低減：化学物質の保管管理及び保管場所の徹底清掃		
6. 環境配慮製品の開発及び販売促進		
①クーラント製品及び遠心分離機等		
② 業務用 光触媒環境浄化装置		
	販売目標 74台	実績78台
7. 地域清掃活動		
2017年度	目標 49回	実績 50回
8. 購入資材・事務用品のグリーン購入		
2017年度	目標 82%	実績 90%

☆東京営業所と大阪営業所では、電力と水資源と廃棄物は、共有の為管理できませんので、自動車の燃料CO₂の削減のみ行いました。

項 目			基準年度	2017年度 2017年7月～2018年6月		
			2016年度	目標	実績	評価
売上高		売上高百万円	626	-	718	—
電力CO ₂ 排出量 (※1)	本社	2017年度 kg-CO ₂	40,727	40,320 △1%	44,931 11%	×
	宮崎工場	2017年度 kg-CO ₂	11,733	11,616 △1%	14,885 26.8%	×
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂	43,412	42,977 △1%	46,118 7.3%	×
	東京	kg-CO ₂	12,526	12,401 △1%	14,343 15.6%	×
	大阪	kg-CO ₂	8,914	8,825 △1%	8,283 △6.1%	○
	合計	kg-CO ₂	64,852	64,203 △1%	68,744 7.0%	×
産業廃棄物排出量		リサイクル率	※2 85%	86%	75%	×
水資源排出量	本社	m ³	※2 262	259 △1%	205 △20.8%	○
	宮崎工場	m ³	※3 125	124 △1%	132 6.4%	×
化学物質の適正管理と清掃		回	24	24	27	○
環境配慮製品販売量		台	※2 73	74	78	○
地域清掃活動		回	※2 49	50	50	○
事務用品グリーン購入		%	※2 81	82	90	○

評価は、○は達成、×は未達成

※1) 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の平成27年度実排出係数0.509 kg-CO₂/kWhで、遡って算出しています

※2) 基準年度：2014・2015・2016年度実績の平均値です

※3) 基準年度：2016年度実績値です

6. 2017年度 環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○できた
△あまりできなかった ×できなかった

取り組み計画	達成状況	評価	取り組み計画	達成状況	評価	
電力による二酸化炭素排出量の削減			産業廃棄物(廃プラ) の削減			
冷房温度28℃設定	◎	このような細かな取組は出来ていましたが、総体的に仕事量の増加で、電気の使用量が増えてしまいました。 LEDの交換は、次年度に繰り越しました。	委託処分廃棄物の削減	△	リサイクル率が悪かった為、さらに委託業者の選定が必要です。	
暖房温度の18℃設定	◎		工事での産廃の分別徹底	○		
不要休憩時間照明の消灯	○		産廃ボックスへの廃棄物の最小化	○		
OA機器のこまめOFF	○		節水			
エアコンフィルタの定期清掃	○		雨水の有効利用（洗車等）	◎	雨水タンクの増設は、実施出来ませんでした。	
電灯のLEDへの交換	×		雨水タンクの増設	×		
断熱フィルム	○		化学物質の低減			
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減			化学物質の保管管理及び清掃	◎	毎月、キッチンと管理も清掃も行って、在庫を増やさない努力をしました。	
急加速発進の抑制	◎	今年度は、1台エコカー購入をしました。	塗装場清掃徹底1回/月(年12回)	◎		
冷暖房の控え目使用（27℃）	◎		製品への環境配慮			
買換え時はエコカーを購入する	◎		クーラント製品等の販売	◎	順調に売り上げる事ができました。	
一般廃棄物の削減			業務用光触媒環境浄化装置の販売	○		
裏紙利用両面印刷コピーの徹底	◎	改善メモシステムとタッチオンタイムの導入により、ペーパーレス化を進めました。	社会貢献			
ペーパーレス化の推進	◎		公民館の清掃	◎	毎週水曜日の掃除の日に、暑い夏の日も一生懸命行ないました。	
ミスプリントを減らす	○		周辺道路の清掃	◎		
雑誌カタログ段ボールの再生利用への徹底	◎		購入資材・事務用品のグリーン購入			
シュレッダー廃紙のリサイクル化	◎		事務用品グリーン購入対象品の購入	○	事務用品は、ほぼグリーン購入が出来ています。 購入資材は、充分考えています。	
納入業者へ段ボールの引き取り依頼	◎		購入資材の環境配慮	○		
			省エネ性能の高い電気製品の購入	△		
			クールビズ・ウォームビズの制服の購入	◎		

7. 2018年度の 取り組み

(1) 2018～2020年度 環境目標

東京営業所と大阪営業所の目標は

- ①環境方針等の掲示や環境活動レポートやマニュアルの設置。そして定期的な環境学習
- ②燃料CO₂排出量の削減の取組を行います。

事務用品のグリーン購入は、2017年度までに意識が向上した為、2018年度からは目標項目に挙げない事としました。

項 目	年 度	基準値	2018年度目標	2019年度目標	2020年度目標
			2018年7月～ 2019年6月	2019年7月～ 2020年6月	2020年7月～ 2021年6月
電力CO ₂ 排出量 (※)	本社 kg-CO ₂	2017年度	40,462	40,053	39,645
	前年度比	40,871	△1%	△2%	△3%
	宮崎工場 kg-CO ₂	2017年度	13,405	13,269	13,134
	前年度比	13,540	△1%	△2%	△3%
燃料CO ₂ 排出量 本社、東京・大阪営業所	本社 kg-CO ₂	2017年度	45,656	45,195	44,734
	前年度比	46,118	△1%	△2%	△3%
	東京 kg-CO ₂	2017年度	14,199	14,056	13,912
	前年度比	14,343	△1%	△2%	△3%
	大阪 kg-CO ₂	2017年度	8,200	8,117	8,034
	前年度比	8,283	△1%	△2%	△3%
	合 計		68,744	67,369	66,681
産業廃棄物リサイクル率	%	3カ年平均値 79	80	81	82
水資源排出量	本社 m ³	3カ年平均値 236	234 △1%	231 △2%	229 △3%
	宮崎工場	2カ年平均値 128	127 △1%	125 △2%	124 △3%
化学物質の適正管理と清掃	回	2017年度 27	24	24	24
環境配慮製品販売量	台	3カ年平均値 79	80	80	80
地域清掃活動	回	3カ年平均値 49	49	49	49

※購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の2017年度実排出係数0.463 kg-CO₂/kWhで算出しています。

※3カ年平均値は、2015・2016・2017年度実績の平均値です。

※2カ年平均値は、2016・2017年度実績の平均値です。

(2) 2018年度活動計画

取 り 組 み 計 画		
電力の二酸化炭素排出量の削減	一般廃棄物の削減	節水
・冷房温度28℃設定	・裏紙使用・両面印刷コピーの徹底	・雨水の有効利用（洗車等）
・暖房温度の18℃設定	・ペーパーレス化の推進	・雨水タンクの増設
・不要・休憩時間照明の消灯	・ミスプリントを減らす	化学物質の低減
・OA機器のこまめOFF	・雑誌、カタログダンボールの再生利用への徹底	・化学物質の保管管理及び清掃
・エアコンフィルターの定期清掃	・シュレッダー廃紙のリサイクル化	・塗装場清掃徹底1回/月(年12回)
・断熱フィルム	・納入業者へ段ボールの引取り依頼	製品への環境配慮
・電灯のLEDへの交換		・クーラント製品
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減	産業廃棄物（廃プラ）の削減	・業務用光触媒環境浄化装置の販売
・急加速発進の抑制	・委託処分廃棄物の削減	社会貢献
・冷暖房の控えめ使用（27℃）	・工事での産廃の分別徹底	・公民館の清掃
・買換え時はエコカーを購入する	・産廃ボックスへの廃棄物の最小化	・周辺道路の清掃

8. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

環境関連法規制等の遵守状況 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	規 制 内 容	適用される施設物品等	適用される法規制	規 制 内 容	適用される施設物品等
廃棄物処理法 (一般廃棄物)	- 一般廃棄物の収集運搬業者への委託 - 契約（覚書）及び許可証写し保管（許可期限切れ更新）	一般廃棄物(紙くず、段ボール、厨芥、包装等)	資源有効利用促進法	- 別名：リサイクル法 - 使用済パソコン等のメーカー回収義務	社内パソコン
(産業廃棄物)	- 委託先許可業確認 - 収集運搬・処理業者との契約（委託契約・産廃管理票発行・5年間保管） - 産廃保管基準、保管置場の表示 - 産業廃棄物管理票交付等状況の行政報告 - 自社による運搬時の表示・書類携行 - 多量排出業者、産廃処理計画・実施状況報告書提出、特別管理産業廃棄物管理責任者の設置	廃プラ 金属くず 廃油 廃酸 コンクリートくず	騒音規制法	特定施設の届出 空気圧縮機7.5KW以上。規制基準の遵守	空気圧縮機7.5KW 2台
			毒物及び劇物取締法	- 事故時連絡 - 保管場所の表示 - 盗難、流出防止	硝酸
			労働安全衛生法	有機溶剤の適正な管理・SDSの周知	塗料用溶剤
浄化槽法	- 設置届出・浄化槽の維持管理 - 定期点検・定期清掃・定期水質検査	合併浄化槽	フロン排出抑制法	- フロン類回収・破壊の適正取扱い - 業務用エアコン・冷凍冷蔵庫管理者の簡易・定期点検、漏洩量行政報告義務	業務用空調設備 コンプレッサー
自動車リサイクル法	使用済み車は引き取り業者に引き渡す。新車購入時にリサイクル費用を支払う	自動車			
家電リサイクル法	家電製品の廃棄時にリサイクル料金支払い	TV、冷蔵庫、家庭用エアコン			

環境関連法規及び条例等への違反、また訴訟等の有無について、2018年7月10日に確認した結果、法律違反等はありません。

また、地域住民からの訴訟や苦情や要望、行政からの指導などは創業以来ありません。（2018年7月12日現在）

9. 代表者による全体の評価と見直し

1. 環境活動の取組み結果の評価

- 赤札作戦は継続されて5S活動にも成果がありました。
- 産業廃棄物の減量、塵のリサイクルは再挑戦に取り組みましたが、産業廃棄物の分別に社内で行いリサイクルに回る筈のものが産業廃棄物業者に出した後埋め立てに回されていたことが時間を経て判明する等ありました。コストだけでなく、社内の努力を無にしない産業廃棄物業者に委託することが真の環境保護に繋がることを学んだ1年になってしまいました。
- 宮崎工場の節水タンクは未達成のまま過ぎてしまいました。クーラント装置の水漏れテスト等大量に水を使うものも2回あり市水を使うことになりました
- 改善メモをペーパーレスにしてネット化しました。改善メモの評価が早く出来るようになりましたが、評価者が期日迄に評価しないことが度々ありMI会議の短縮が出来ませんでした。
- タイムカードをタッチオンタイムシステムに変更し、各種の届出用紙が不要になりました。
- 本社営業車をデミオエコカーに替えました。

2. 実績の評価

- 売り上げが前年比16%増加したものの、本社電力使用量は10%の増加のみに抑えられました。本社事務所のエアコンも28度設定の中、扇風機を回すことで結構涼しく感じる事が出来ました。この様な結果、暑い中に関わらず10%増に抑えることが出来たと思われます。宮崎工場はエアコンもない中、今年の異常気温に対応して工場扇を独り当たり1台買い増しました。スポットクーラーは使用中止しました。電力量が26.8%増加しました。
- 産業廃棄物のリサイクルは取組み評価に記した通りです。
- 水の節約は本社工場の大型形状物件ボイル機などの受注増加も原因として挙げられます。宮崎工場の雨水タンク設置が出来なかったことも宮崎工場です。テストに使う水量の原因として挙げられると思います。来期は設置することで節水します。化学物質の管理は毎月良く出来ました。
- 環境配慮製品の販売目標達成できました。機械要素展に出展しました。新製品のアイデアも募集して行きます。そのために設計者が現場を見て何が問題なのか知ること、聴くことが大事です。
- 地域清掃活動は暑さが続く夏の中、良く頑張ってくれました。熱中症も出る中、水を配布したり時間を短縮したりしました。
- 宮崎工場のアスファルト舗装を施工しました。排水が一部道路に流れることになりました。

3. 今後の取り組み

地球上では益々異常気象と思われる台風の頻発、コースの変化、日常化する大量の降雨量、猛暑日の日常化等これまでと明らかに変わって来ました。EA21に取り組む無力さもありますが、継続して温暖化の進行に歯止めすることが何よりも大切な事です。

- 宮崎工場の節水対策は引き続きトライします。
- 2トントラックは排ガス対策された車種を選定して更新します。
東京営業所は東北の雪道対策のためにサクシードの4輪駆動車に替えます。大阪もサクシードに替えます。新型車は燃費向上対策が進んでいます。
- 産業廃棄物のリサイクル率の目標達成に向けて真剣に取り組めます。
- 塗装室の排気部を改良します。
- 開発室周囲のブロック工事、事務所横土手の崩落対策をコンクリート舗装で施工します。
- 事務用品のグリーン購入は今期対象外としました。

10. 環境活動の紹介

1. 環境方針の周知



全社員を対象に、エコの報告会をしました。



新入社員7名に、エコ新人研修を行いました。



酸洗いの液が流出した場合の対策の説明も行ないます。

平成27年度に受賞したエコアクション21環境活動レポート大賞地域社会貢献賞のパネルや賞状も掲示しています。

2. 環境関連法規の遵守



年一回の消火訓練を行いました。
宮崎工場から出火と想定して火災
報知機も実際鳴らしました。



永田防災さんから、消火器の使い方を習い、水
入りの消火器で試してみました。



毎年、火災警報器の点検と消火器の点検をしています。火災
報知機の取り扱いについても学びました。

3. 二酸化炭素排出量の抑制

タイムカードの勤怠システムをタッチオンタイムの勤怠システムに変更しました。
休暇届けや時間外勤務の申請等がパソコンで出来るようになり、紙の届出用紙が不要になりました。

2017年度は、改善メモシステムを構築し、ペーパレス化を図りました。
赤札作戦は、赤い紙の方が、指摘された場合に分かり易いので、そのままです。



4. 資源の効果的活用の推進



手作りの雨水タンクも2機あり、毎回洗車に利用しています。



ニチバンの巻芯を集めて、ニチバンecoプロジェクトに応募して、感謝状と花の種を頂きました。



インクジェットプリンターのカートリッジは回収ボックスで完全回収します。メーカーに送らなくても学校のベルマークにもなります。



5. 化学物質の適正な管理及び清掃

塗装場はいつも清掃を行ないチェック表に記入しています。
在庫管理もしっかりしてあり、余分な在庫は置かないようにしています。

事務所で集めた古切手も、川内なでしこライオンズクラブへ贈呈します。

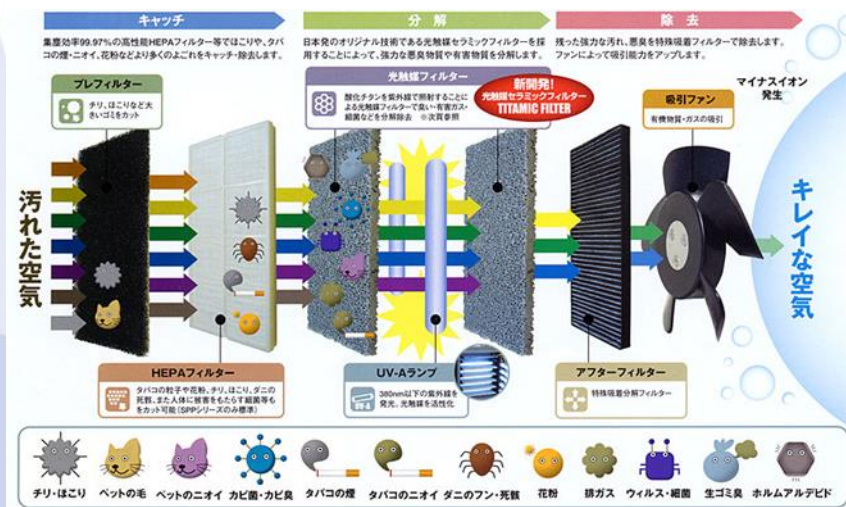
6. 製品への環境配慮

6-1. 環境配慮型クーラント製品の開発・販売



マグネットコンベアーは、機械部品加工会社の機械に取り付けて、切り粉をクーラント液の中から自動的に取り出すことによって、クーラント液の寿命を延ばし、クーラント液の使用量を減らす効果があります。(廃液が減る)

6-2. 除菌と消臭を同時に行う業務用光触媒環境浄化装置の販売



光触媒環境浄化装置は、**かざとキンとり君**と名付けられ、曾於市内のSOOグッドFMでの鹿児島弁の宣伝の効果があったのか、一般家庭からも問い合わせがあり、売り始めています。(かざとは、鹿児島弁で臭いです)



光触媒環境浄化装置は、家庭でも病院や介護施設、大学病院等幅広く活用できます。

7. 地域の環境保全事業への参加



社員駐車場・三枝前自治会の公民館の敷地内の草刈りや清掃を毎週水曜日に、行っています。



←皆で植えたヒガンバナ

→
9月に綺麗に咲きました

